

～ピンクリボン通信 No.6～

「ワクチン接種と手術時期について」

乳腺外科部長 中野 聡子

皆さんこんにちは。今回もまた新型コロナウイルス情報です。

新型コロナウイルスのワクチンに関して、国内の16歳以上のすべての接種対象者のワクチンを、9月末までに供給できる見通しが立ったと、河野行革担当相（ワクチン担当相）が、明らかにしました。ご高齢の方々には、そろそろワクチン接種のお知らせが届く頃かと思います。これから手術を予定されている方は、ワクチン接種をしても良いのか、いつなら良いのか心配されていると思います。先日、日本麻酔科学会より、ワクチン接種と全身麻酔施行の時期についての指針が出されました。下記に全文載せますので、ご一読いただければと思います。この指針は、アメリカとイギリスの情報を引用しておりますが、ワクチン接種から手術までの間は、アメリカは2週間、イギリスは数日程度あけた方が良いとされています。しかしながら、3週間後に2度目のワクチンとなりますと、病気、手術、また手術後の経過によっては、予定された日程で2度目の接種が行えない場合があります。一般的に言われている生ワクチンや不活化ワクチンと異なり、安全性の問題と言うよりも、接種後数日間に起こる副反応を避けるという意味合いが多いようです。

mRNA COVID-19 ワクチン接種と手術時期について

公益社団法人日本麻酔科学会理事長 小板橋俊哉
COVID-19 対策特別委員会

予防接種と全身麻酔施行までの期間について、米国疾病予防管理センター（以下CDC）とRoyal College of Surgeons of England（以下RCS）からの情報を以下に紹介する。

CDC では2週間、RCS では数日と記載されているCDCからは免疫抑制療法を行う患者に

に対する情報もあり、大きな手術後に免疫能が低下する懸念がある場合に参考になると考えられる。 CDC はワクチンによる抗体産生が麻酔や手術に伴う免疫抑制により抑制されることを考慮していることが考えられ、英国 RCS はワクチン自体の安全性からの意見と思われる。RCS としては、ワクチン自体が生ワクチンや不活化ワクチンと異なり、mRNA ワクチン自体で COVID-19 を起こすことがないので、むしろ接種 2、3 日後に起こることの多い発熱など副反応と術後の炎症等との鑑別をするために、その期間(数日)を避けるという意味であると推測する。

いずれにしても重要なことは、いずれも明確なエビデンスに基づいたものではないことであり、施設の感染対策部門および手術チームで検討し、院内で共通認識をもって臨むことを推奨する。なお、今後、厚労省からの見解が出た場合や mRNA 以外のワクチンの場合には、変更する可能性があることをご理解いただきたい。

● 米国疾病予防管理センター（CDC）

・他のワクチンとの同時接種

安全性と効果に関するデータが欠如しているため、ワクチンは単独種で行うべきであり、どのワクチン接種であっても最低2週間はあけて行う必要がある。しかし、接種の利益が同時接種で起こる未知の潜在的リスクを上回ると考えられる場合は、短期間のうちに COVID-19 と他のワクチンを接種してもよい。

・免疫抑制療法とワクチン接種

免疫抑制療法予定者への COVID-19 ワクチン接種の最適なタイミングを知らせるにはデータが不十分である。しかし、免疫不全患者に対するワクチン推奨事項とガイドライン（ACIP Vaccine Recommendations and Guidelines）によれば、理想的には COVID-19 ワクチン接種は免疫抑制療法開始の少なくとも2週間前に完了する必要がある。

(Interim Clinical Considerations for Use of COVID-19 Vaccines Currently

Authorized in the United States. CDC: Last updated Mar 5, 2021.

<https://www.cdc.gov/coronavirus/2019-ncov/vaccines/index.html>)

(ACIP Vaccine Recommendations and Guidelines. CDC: July 16, 2013 Advisory Committee on Immunization Practices (ACIP)

<https://www.cdc.gov/vaccines/hcp/acip-recs/general-recs/immunocompetence.html>)

● Royal College of Surgeons of England

手術とコロナワクチン接種について

患者の手術を計画するとき

- ・ ワクチン接種の状況に関係なく、必須の緊急手術を行う必要がある。
- ・ 緊急でない待機手術は、ワクチン接種後すぐに行うことができる。手術日とワクチン接種を数日間（最大で 1 週間）空けると、術後の発熱などの症状の原因がワクチン接種か手術自体の結果かどうかを区別できる。

(For surgeons and surgical teams treating patients during COVID-19 – endorsement of the Academy statement. 22 January 2021

<https://www.rcseng.ac.uk/coronavirus/vaccinated-patients-guidance/>)